

飼料用トウモロコシ県認定品種 (32F27) の現地実証

要約

飼料用トウモロコシの県認定品種(32F27)が単収向上に寄与することをRM(相対熟度)に近い品種を用いて比較展示したところ、日照不足等の天候不順があったにもかかわらず、倒伏がなく、目標を上回る収量を確保できたことから、県認定品種は、単収向上が期待でき、耐倒伏性に優れていることが示唆された。ただし、成熟期における日照不足と多湿が続く場合は、カビの発生に注意する必要がある。

○ 展示のねらい

1 目的

栃木県では、畜産酪農研究センターの実証試験を基に奨励品種及び認定品種(以下「認定品種」という。)を定めているが、その利用率は、飼料用トウモロコシにおいて37%と低い現状にある。そこで、県認定品種の現地実証により単収向上に寄与することを地域に示し、今後の利用拡大を目的とする。

2 展示内容

- (1) 具体的目標 飼料用トウモロコシの単収 1,500kg/10a (乾物)
- (2) 供試面積 30 a (供試区 20a、対照区 10a)
- (3) 展示内容及び試験区概要

	品種	RM(相対熟度)	前作
供試区	32F27	126日	エンバク
対照区	P2023	125日	エンバク



左:供試区 右:対照区

○ 主な成果

表:生育・収量調査の主な結果

	品種	稈長	着雌穂高	倒伏	折損	カビ	乾物総重 (kg/10a)	乾物茎葉重 (kg/10a)	乾物雌穂重 (kg/10a)	推定TDN 収量(kg/10a)
供試区	32F27	327cm	146cm	無	無	小	1,937	665	1,272	1,468
対照区	P2023	316cm	138cm	無	無	小	1,837	679	1,158	1,379

供試区は乾物総重が1,937kg/10aと目標収量を29%上回るとともに、対照区を100kg/10a上回った。加えて、日照不足等の天候不順があったにもかかわらず倒伏が見られなかったことから、県認定品種は、単収向上が期待でき、耐倒伏性に優れていることが示唆された。ただし、成熟期における日照不足と多湿が続く場合は、カビの発生に注意する必要がある。

○ 今後の方向性

実証された結果について、下都賀地区の技術担当者会議等で情報共有を図るとともに、飼料用トウモロコシ作付け農家等に周知する。ただし、日照不足と多雨の影響と思われるカビの発生が見られた点は付記する。

実施機関： 下都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所： 栃木市

問合せ先： 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315